

# 東不王京

## 馬阪山ひのきしん碑文

JR関西本線王寺駅下車（法隆寺駅の隣）車で五分、県立王寺工業高校の裏手に第七代孝靈天皇丘馬阪陵がある。

その昔、聖徳太子が片岡王寺の地に建てたと云う記録があること、からこの地名が出来たとのことである。「孝靈天皇の都は、里田の盧戸（イオト）宮にあった。」と云う。

これは、今の磯城（シキ）郡田原本町の馬田と宮古に当ると云われてい  
る。（鍵の中島富雄さん宅の近く。）  
この天皇は古代中家、鳥越憲二郎

先生によれば葛城王朝の中心的な大王（オオキミ）であり、その皇女に邪馬台国の卑弥呼（ヒミコ）ではな  
いかと云われる、倭迹々日百襲姫  
（ヤマトトトヒモソヒメ）命がい

る。この天皇は、伝説的存在であると云っても歴史の光が、ようやくこの辺からあかるくなって来て、ヤマ  
トトトヒモソヒメは、三世紀の初  
頭の崇神（スジン）天皇の時代に大  
活躍する人である。

崇神天皇の御陵は、天理市柳本町  
にあり、倭迹々日百襲姫の御陵は、

桜井市箸中町に共に巨大な前方後円墳の雄姿を表わしている。天理より山の辺の道を散策していて眺められる。葛城王朝と大和王朝とのつながりの糸をたどり古代のロマンにひたりつつ馬阪山の道を登る。

この道を里の人は「天理道」と呼んでいる。明治十一年四月、天理教が始めて公認され、旧十月十六日開延式を堂々とつとめ、参拝者は、十数万人の多きにのぼる。河内方面よりの信者が、おちばへ」と、急増したので今では王寺村の丘陵をずーと迂回していたが、いつそそこ

を切り通して近道を作るかと、云う話を持ち上げる。その当時、一番力があった積善講（後の平安大教会）中の人々が中心になり、公認天理教として第一番目の大がかりな三キロにも及ぶ切り下げ工事のひのきしんを行なった。明治十一年一月より二月まで、数百名の人々が（延五〇〇〇人）参加した。

その工事中、落石事故で河内国八上郡石原村（現、堺市）の井関久治郎氏が殉じた。その碑がこの天理道のほとり、孝靈天皇の御陵の前に建っている。その碑文を左にあげると、



井関久治郎碑にて  
筆者と家内

(碑正面)

井関久治郎墓誌銘

井関久治郎河内国八上郡石原村人也。性謹厚篤実、賞崇<sub>二</sub>敬天理教會主神<sub>一</sub>。(註)有年矣。明治<sub>二</sub>二年一月、天理教會員裁<sub>レ</sub>力開<sub>二</sub>巽和州竈下郡片岡馬阪山路、以便<sub>二</sub>行旅<sub>一</sub>。此奉也。(後略)

(碑裏面)

天理教會積善講々長安塚村

主唱者 飯田岩治郎

春木一馬

谷甚二郎

瀧原二治郎

辻本善蔵

胡内勘治郎

皆(このとき)明治廿二年八月

〇〇刻〇〇

〇〇林九右工門

世話方

(註)天理教會主神は天理王ノ尊

で天理教會は公認以前の名稱である。「大和王寺文化史論」に金石大の説明として出ている。

書は名筆と云われた人足社飯田岩治郎(三十一才)であるが、その当時の熱心な信者の躍動している姿を感じる。その切り通しのお蔭で里人は天理道として、なつかしみ、そのふもとに、明治十九年に吉村茶吉民が建てた

右	神武天皇
左	天理地場
	道

の道するへがある。(生駒郡 王寺町元町丁目)

天理教史として、ともすれば忘れさられてしまふ、ひのきしん第一号の尊い天理道の碑文である。

創刊号に「靈教談」として項をもうけたら、ある信者さんから、「最近、あちこちで靈現象を取りあげ、靈感商法まで飛び出すしまつ。



天理地場道の碑

靈教談というと、先生のことを知っている人なら判りますが、このミニ新聞がコピーにコピーを重ねていくうちに知らない人は、行者がローソクを立て九字を切る

ような、先生を心に

浮へると思えます。

先生は本当に、エブ

ロンをかけたまま駆け込んで、お話を聞けるようなムードの「はなしいしゃ」の方が、やわらかくて、と思つんですが。」というところで、表現を第 号よりかえてみました。

これは、教祖のお咄しとして次の

よつに出ている。

「とりつきに、りがわかつて、十が十ながら、神の心になつたら、とり

ちよつとつぎになつたら、とり

つぎに、みなたに

もなちる、とりつきのいう通りにしてつぎする。そこで、せかいからはなしいしゃとつぎつぎになるで。」

(「正文續讀」より)

# 更年期障害

## ○ 更年期障害

これまで順調であった女性の生理が、ある年令になると、なぐなぐしてしまふもので、これを閉経という。

閉経は大体四十五才から五十才頃である。その後数年間を更年期と言ひ成熟期から老年期へ移る期間に相当し、全ての女性が通らねばならぬ関所のようなものである。

この期間、性ホルモンを中心として、いろいろなホルモンの状態が不安定になり、そのため種々の症状を表し、これを更年期障害と言ひ、人よつては非常に複雑な、しかもがんこな苦痛を伴つという。

茨城県の A 夫人 (五十一才) から四月二十三日夜、「手足がしびれて、頭の中が急に軽くなり、脳みそが抜けてしまつたよつた気がしたり、目ま

いもする。」という電話が入った。血圧も普通、最近の子宮癌検査も OK のこと。

小松崎「それは更年期障害でしょう。心配ないと思います。今までいろいろとお話を聞き、五十才になつて始めて夫婦の心のきずなが確かめられて、改めて再出生したあたなたです。

神様は全て夫婦を基運としてお手引きして下さいませ。子供を育て上げた現在、夫婦生活に対しては、こんな年になつたのにと拒否してばかりいた貴女は、子宮筋腫という天の手紙を頂きました。その手紙をよく読んで主人に対して暖かく受け入れる心定めによつて御守護になつたことを考えると、神様のテストに合格したのではありませんか。その合資格を持ち続け、

女性として誰もが通る更年期障害という関門を通り抜け、これから三十年以上の長い老年期をバラ色の人生にして頂きたいと思ひます。

これからこそが夫婦として、心と心が通じ合える名実共の一心同体になれるのです。仲の良い夫婦にはひどいお手入れはありません。心配しないで下さい。すぐ治ります。」

と話して電話を切る。

次の朝、すっかり治つたとお礼の電話が入る。丁度その時、NHKテレビの「婦人の時間」で「更年期障害」を取り上げていた。その中で医師も私が言つたように「医師を信じて下さい。心の安定こそ大切です。」と言つていた。

お助け人衆は、教祖より「話し医者」と云われている。助け人衆と信者さんとの心が通じれば、一信あれば、電話一本でも御守護になれるものである。

「病は氣から」とは、神様のお話が二つ二つ、成程々々と、心に治まれば「氣」が、天理になつて、病氣が自然に治るのではないだろうか。

そういう時、信者さんは、「ピンときた」とか、「体がスーッとした」とかと、話される。

女性の平均寿命が、八十才になつた現在、更年期障害は、これから、全ての女性を通り抜けなければならぬ関所で、子育て、教育などで夢中で過したきた自分を、一人の女性として心豊かな人間の完成をめざしてスタートを切る時でもある。

「二つ二つが天の理」と、お教え頂いているように、大自然は、我々に、陰陽、男女、天地など相反する二つのものを与えて、その調和を望んでいる。

A 夫人は、親神様が望んでおられる調和に向かつて、女性として、これから沢山、心の勉強をすることに気がつき、数日後、神様の前にて、明るく、「頑張ります」と誓われた。夫を鏡として、相手を活かす道を求め、本当の陽気ぐらしを体験して頂きたいと話しを結んだ。

○ 尿道結石 (二)

四月下旬、上記のA夫人より、  
「先生、今度は主人が急に血尿、横  
腰痛、腰痛がひどくなったんです。  
どうしたらいいでしょうか。」と、  
電話が入る。

小松崎「早速、お願いづとめさせて  
もらいますが、すぐ病院にて、診  
察して下さい。」  
夜、再び電話で、「尿道結石と診  
断され、入院し占満している。」と  
いう。

昭和六年二月六日

小松崎「掃除をしない便器は、赤茶  
色の尿垢がコビリ付き、それを取  
る為には、塩酸を使って、やっ  
と取れるものなのです。そうゆう尿  
垢の様なものが固まって、結石に  
なるのだと思います。しかし、普  
通は、五十年使っても、八十年使  
っても、一度も尿道や膀胱や腎臓  
を塩酸で掃除する人はおりません。

つまり、尿垢は、なまらないう様に  
なっているものです。貴女が、御  
主人に対して、やさしく接し、心  
から受け入れる心が出来たので、  
此の前の様に子宮筋腫が、御守護  
になったのですから、今度は、神  
様は御主人に対して、今迄の様な  
ワンマンで、一方通行的な要求で  
はなく、奥さんにやさしい心くば  
りをしてほしい。又、九ツの道具  
(註)の中の二ツに対して、ガム  
シヤラな気持ちを持って、思いやり  
のある使い方をお勉強して頂きたい  
とおっしゃるのでしよう。心と心  
とが、溶け合えば、全とうまく行  
くものです。膀胱や尿道の中には、  
固い石はいりません。その心が治  
まれば、自然に溶けるか、小さく  
なって外に出るものです。体に不  
必要なものは体の外に排出される  
ことになっています。人間が考え  
て結石を作ったのではないのです。  
天の手紙が判れば必ず消えてなく  
なります。」

五十二才のその御主人は、成程々  
々と涙を流して聞く。その後、一日  
目には、レントゲンにその存在が写  
らなくなり、三日目には、元気に退  
院した。  
ふたりのこころをさめいよ  
なにかのこころをあらはれる  
と、教祖は「みかぐらうた」に、お  
示し下されて居られます。

(註) 親神様から人間身の内に借  
し与えられている、九ツの道具。  
即ち 目、耳、鼻、口(入口、出  
口)、右手、左手、右足、左足、  
男女二の道具。

○ 尿道結石 (二)

(二)の方が退院されたら御礼の電  
話が入った時、B夫人が、小学校の  
子供一人を伴って参拝に来られる。  
B「先生、主人が尿道結石と言われ

昨日より点滴をうっています。入  
院する程ではないと言つのですが、  
小松崎「今、丁度、尿道結石が溶け  
たか、消えたかしてなくなつたと  
お礼の電話が入ったのです。(そ  
れでA氏の話をします。)しかし、  
あなたの御主人の場合は、未婚生  
活の問題ではないと思います。印  
刷工としては、熟練工だった御主  
人が、コンピューターの導入で会  
社がロボット化され、三十五、六  
才の油のり切っている時、改め  
てこれからコンピューターのイロ  
ハを勉強して、新しい、技術を体  
得していかねければならなくなっ  
てしまい、精神的にまいっている  
のだと思います。いまさら転職も  
出来ないのです、どうしても新技術  
を身につけなければ、生活がかか  
っているのだしと、男ならばこそ  
毎日々々心の中で悩んでいたのが、  
しりりとなつたのでしよう。そつ  
いう時こそ、大きい愛情が必要な  
のです。こんな可愛い、親孝行な

子供さんが二人もいるのです。お父さんが、会社から帰ってきた時、TVばかり見ていないで、すぐさま二人で飛び出して、「お父さん御苦労さん」。

「と、お父さんにまつわりつき、服をぬがすなり、肩をもむなり、お酒をつくなりして、こういう時こそ、夕食を一品多くしたりして、心をこめて迎え入れるのです。奥さんと、子供達が、心を合わせてやさしく、仕事で疲れたお父さんをつつみこむようにしてあげて下さい。丁度、骨にびったりと肉がまつわりつく様に心のすきまをなくして下さい。そうすると、お父さんは、大黒柱としての責任と自信をとりもどします。よしよしとぞ。又、明日頑張るぞという気持ちが出ます。こうなれば、自然に結石は溶けてしまします。大丈夫ですよ。」

と、話として頂く。納得して、三人はニコニコして帰られる。数日後、結石は溶けてなくなったとTEBしが

○ 尿道結石 (三)

六十年秋、修養科の御伝講師をつとめさして頂いていた、ある日のこと、天理高校一年のC君が、サッカーの練習中に、突然腹痛におそわれ診察の結果、尿道結石と診断されたという。お話を伺ったので、

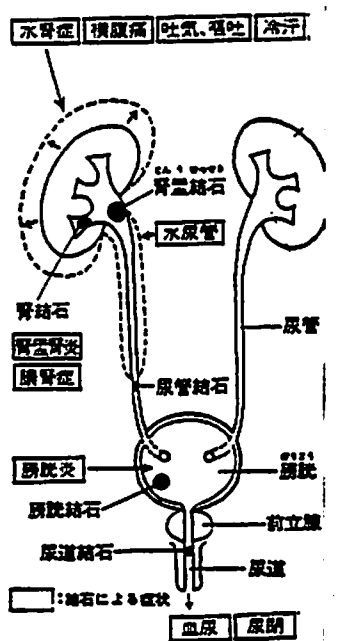
おさづけを取次がしてもらったから、学制寮から毎日詰所にかよってくるようにと先ず言う。

小松崎「結石とは、歯石のような堅い石であるけれどもお話の理により、だんだん下がってポトンと落ちて出ると思うから、小用はバケツで足すように。」

C君「先生、大丈夫ですか？」

小松崎「心配しななていい、お母さんによく話しておくから。」

それから、長いこと、詰所に、ひのきしんしているC君の母に、小松崎「あなたは、御主人を交遊事



尿路の図

故でなくし、姉妹もほとんどが、夫連が悪い。長男と次男の名を見ても、次男が長男の役目をするようにならざるを得ず。神様は、長男が立たん、男が立たんと言う理を、長男の尿道結石として表わしてみせて下さったのでしよう。次男にもよく話して兄を立てるように、

又、あなたも兄よりも、次男ばかりをほめるようなことを慎しみ、長男を立てるように努力してみてください。折角おぢはに伏せ込ましてもらっているのだから、C家の為に、長男が立つよう、男が立つよう勉強してください。」

C君「先生、出ましたッ。」と、米粒大の赤色の結石を、フィルムの缶に入れて見せてくれた。

それから一年、今月の五月、長男は大理大に、次男は天理高に入学し次男は、いつも長男を立てて、母子三人元気に強く、明るく通っている姿に接した。

